

BTC NEWS

BTCニュース

2024年(2) No.135



第7回 浦河高等学校写真部 BTCフォトコンテスト 理事長賞「ひとり遊び」近藤 夕日

育成調教技術者養成研修

2025年 春 入講

43期 研修生募集中



応募資格

- 研修修了後、必ず軽種馬の生産・育成に3年以上携わることのできる者
- 入講時、中学校卒業以上の学歴を有する者
- 厩舎作業及び騎乗訓練を行うのに支障がない者

申込締切

9月5日(木)



CONTENTS

- | | |
|---|--|
| ① BOKUJOBからのお知らせ..... 1
生産育成牧場就業者参入促進事業(BOKUJOB)について | ④ 馬に見られる病気..... 12
軽種馬生産に影響を及ぼす細菌感染症
①子馬のロドコッカス・エクイ感染症 |
| ② 海外の最新情報..... 6
アニマルウェルフェア(馬に対する福祉)について | ⑤ BTCからのお知らせ..... 15
第7回浦河高等学校写真部 BTCフォトコンテスト |
| ③ 競馬の箱馬車..... 10
JRA競馬博物館特別展「JRA70周年記念
歴代年度代表馬展～70年を彩った名馬たち～」 | ⑥ やさしい育成技術..... 16
JRAのリトレーニングプログラムとその応用② |
| | あとがき..... 20 |

物産アニマルヘルス

動物用医薬品

馬の便秘症における
消化管運動機能低下の改善に
優れた効果を発揮!

馬用消化管運動機能改善剤
指定医薬品 使用基準

プロナミド®E散1%

(モサブリドクエン酸塩水和物)



PRONAMID® E Powder 1%

※詳細は添付文書をご参照ください。

製造販売元
物産アニマルヘルス株式会社
大阪市中央区本町2-5-7
<https://www.bussan-ah.com>

[2023年6月]

FUJIFILM
Value from Innovation

馬用サプリメント
Pure Salacia
ピュアサラシア



サイエンスに裏付けられた腸内環境サポートサプリ

特長

- 1 天然植物サラシアに含まれるサラシノールが、馬の腸内の乳酸菌比率を増加させる※1
- 2 エネルギーの吸収に適した腸内環境に整える※1※2

※1 2016年 日本ウマ科学会にて発表

※2 Jumpertz R et al., Am J Clin Nutr. 94(1):58-65. (2011)

給餌方法

成馬	仔馬
(500kg換算): 8~16 g/日 (かさ目安30~60 mL/日)	(100kg毎): 1.6~3.2 g/日 (かさ目安6~12 mL/日)

- 食餌回数に分けて飼料に混合して与えてください。
- 状態に応じて適宜、給餌量を調整してください。
- 水に溶かしてシリンジで直接与えることも可能です。

■ 名称 馬用サプリメント ピュアサラシア

■ 内容量 480g、240g

【注意事項】 馬以外に使用しないでください。

※ 本製品は(財)競走馬理化学研究所の薬物検査にて問題ないことを確認しています。

□ 本製品についてのお問い合わせは

株式会社 富士フイルムヘルスケア ラボラトリー サプリメントグループ マテリアル事業チーム
〒164-0012 東京都中野区本町2-46-1 中野坂上サンプライトツインビル14階
TEL:03-6300-6419

詳しい情報は
こちら▶



生産育成牧場就業者参入促進事業 (BOKUJOB) について

公益社団法人 競走馬育成協会 事業推進部長 上村 剛

はじめに

牧場就業促進事務局は、(公社) 競走馬育成協会、(公社) 日本軽種馬協会、(一社) 日本競走馬協会、(公財) 軽種馬育成調教センター及び日本中央競馬会の5団体で構成され、2023年8月に設立満15年を迎えました。

事務局では、2010年度から地方競馬全国協会が実施する「競走馬生産振興事業」のうち、経営基盤強化対策事業の軽種馬経営高度化研修(人材養成支援)による助成を受けて、「生産育成牧場就業者参入促進事業(BOKUJOB)」を実施しています。

今回は、誌面をお借りしてBOKUJOBで実施している3つの事業を紹介します。

- ①対面での就業・進路相談活動：生産・育成牧場での就業を希望する若者を対象とした就職フェアの開催等
- ②参加・体験型イベントの開催：牧場就業希望者向けの生産・育成牧場での就業体験会や調教施設見学会等
- ③Web、SNSでの取り組み：競走馬 生産・育成牧場就業応援サイト「BOKUJOB.com」等の運営により、全国の生産・育成牧場の求人情報等を牧場就業希望者へ提供
2020年以降のコロナ禍では、対面での就業・進路相談活動や参加・体験型イベントの大半が中止を余儀なくされ、この間、Zoomを使用した「Web相談会」や若者の情報ツールであるSNSやYouTubeを活用した情報発信等の取り組みに注力しました。特に、コロナ禍から開始した「Web相談会」は、遠方である、日程が合わない等の理由により、対面のフェア等への参加が困難である牧場就業希望者でも参加できる就業・進路相談活動として浸透しています。

続いて、2023年のBOKUJOB活動を詳しくご紹介します。

①対面での就業・進路相談活動

2023年のBOKUJOB活動における最大のトピックスは、コロナ禍で3年間開催することができなかった東京競馬場での「BOKUJOBメインフェア」の再開です。

メインフェアは、2010年から開催しており、平日開催、秋の競馬開催日を経て、現在では安田記念施行週に開催するBOKUJOB最大の就業・進路相談活動です。

2023年は、6月3日(土)、4日(日)に全国から東京競馬場に23牧場と関係機関4団体が参加しました。また、新たな取り組みとして、東京競馬場に来場することができない牧場等もWebを通して参加できるようWeb面談コーナーを設置し、計7牧場・団体が参加しました。

○会場参加牧場(順不同)

No	牧場名
1	千代田牧場
2	吉澤ステーブル
3	吉澤ステーブルWEST
4	富田ステーブル
5	ピクトリーホースランチ
6	遡分ファーム
7	チャンピオンズファーム
8	社台ファーム
9	ハクレイファーム
10	ノースヒルズ
11	大山ヒルズ
12	下河辺牧場
13	白井牧場
14	イクタトレーニングファーム
15	Tomorrow Farm
16	宇治田原優駿ステーブル
17	坂東牧場
18	エクワインレーシング
19	ダーレー・ジャパン・ファーム
20	松風馬事センター
21	グリーンウッドパーク
22	社台コーポレーション
23	ノーザンファーム

○会場参加団体(順不同)

No	団体名
1	日本軽種馬協会(JBBA研修)
2	軽種馬育成調教センター(BTC研修)
3	北海道静内農業高等学校
4	JALしずない

○Web参加牧場・団体(順不同)

No	牧場・団体名
1	グリーンウッドパーク
2	ビッグレッドファーム
3	グランド牧場
4	STウインファーム
5	岡田スタッドグループ
6	山ロステーブル
7	日本装蹄協会

表1 BOKUJOB 2023 メインフェア 参加牧場・団体

台風接近に伴う悪天候の影響を受けて、中部・関西方面からの一部の参加牧場が東京競馬場への到着が遅れるなど、メインフェア開催への影響も懸念されましたが、牧場就業希望者等にとって、メインフェアは牧場関係者や研修担当者へ直接相談できる貴重な機会であることから、雨模様となった初日はもちろん、2日目も数多くの牧場就業希望者に来場いただきました。2日間合計で過去最高の435名が来場し、牧場関係者や研修担当者との相談を熱心に行っているその姿からメインフェアへの期待の大きさを窺うことができました。

また、Web面談コーナーも、会場には不参加の牧場・団体と牧場就業希望者が相談できる機会の創出となったことから、Web参加の牧場、牧場就業希望者の両方から好評をいただきました。

年	来場者					保護者 学校関係	見学者	受付来場者 合計
	小学生 中学生	高校生 高専生	大学生 大学院生	社会人 その他	計			
2023年	12	72	50	98	232	121	82	435
2019年	15	50	49	63	162	86	6	269
2018年	21	38	48	35	121	30	82	254
2017年	-	34	69		103	44	48	195
2016年	-	50	73		123	61	70	254
2015年	-	36	50		86	34	200	320

表2 BOKUJOB メインフェア 来場者数の推移



図1 BOKUJOB 2023 メインフェアの様子



図2 BOKUJOB 2023 メインフェア 面談コーナー

また、JRA競馬場等での入場制限も撤廃されたことから、牧場就業促進事務局がJRA競馬場等にて就業・進路相談等を行うサポートデスク（広報・相談コーナー）を設置して、各地の牧場就業希望者との就業・進路相談活動も

実施場所	来場者数
三木ホースランドパーク（兵庫県）	50
	52
JRA阪神競馬場	42
JRA中京競馬場	68
ノーザンホースパーク	38
	43
御殿場市馬術スポーツセンター（静岡県）	15
JRA宮崎育成牧場	200
JRA小倉競馬場	38
日本学校農業クラブ全国大会（熊本県）	175
大井競馬場	19

表3 サポートデスクの実施状況

行いました。

更に、BOKUJOBをより多くの方に知ってもらうことを目的とした初めての取組みとして、特別区競馬組合の協力を得て、11月15日（水）の大井競馬第9競走で「馬と生きる。牧場のしごと発見プロジェクト BOKUJOB 賞」を施行（図4）し、併せて大井競馬場にて広報活動や就業・進路相談活動を行いました。



図3 サポートデスクでは就業・進路相談等を実施



図4 大井競馬第9競走で「馬と生きる。牧場のしごと発見プロジェクト BOKUJOB 賞」を施行

②参加・体験型イベントの開催

参加・体験型イベントでは、関東・関西の育成牧場各3カ所を見学する「牧場で働こう見学会」を、4年ぶりに開催しました。この見学会は、学生・生徒が進路を決定する際に大きな役割を担う保護者や進路指導担当の教員も参加できる唯一の参加・体験型イベントとなっています。

また、牧場就業を希望する学生・生徒を対象に、静内・浦河の牧場で就業体験を行う「牧場で働こう体験会」およびBTC・JBBAの研修機関への入講を検討している学生・生徒を対象とした「研修コース合同体験入学会」についても、将来の進路を考えるうえで、貴重な経験ができるイベントとして開催しました。

なお、「見学会・体験会」や「合同体験入学会」の参加者から牧場就業者やBTC・JBBAの研修機関の合格者が出ていることもあり、多数の応募があるイベントになっています。今後、より多くの希望者が「体験会」に参加できるよう受入牧場各位のご理解とご協力をお願いします。

	見学会（1日） 関東・関西 合計		体験会（5泊6日）		研修コース合同体験入学会（2泊3日※）	
	応募者	参加者	応募者	参加者	応募者	参加者
2011年	109名	59名	33名	15名		
2012年	98名	53名	40名	18名		
2013年	68名	44名	41名	18名		
2014年	59名	44名	33名	15名		
2015年	66名	49名	55名	16名		
2016年	97名	51名	58名	16名		
2017年	60名	59名	30名	17名		
2018年	59名	59名	31名	16名		
2019年	64名	53名	41名	17名	18名	16名
2020年	中止		中止		40名	20名
2021年	中止		42名	12名	67名	25名
2022年	中止		67名	13名	118名	29名
2023年	132名	65名	100名	15名	91名	29名

表4 参加・体験型イベントの応募者数・参加者数の状況



図5 牧場で働こう見学会



図6 牧場で働こう体験会



図7 研修コース合同体験入学会

③ Web、SNSでの取り組み

競走馬 生産・育成牧場就業応援サイト「BOKUJOB.com」では、牧場就業希望者等に対して、全国の生産・育成牧場の求人情報や就業体験受入情報等を発信するとともに、就業・進路相談活動の開催情報、参加・体験型イベントの募集告知等の発信も行っています。



図8 牧場就業応援サイト「BOKUJOB.com」



図9 BOKUJOB X (旧 Twitter)



図10 BOKUJOB YouTube チャンネル

また、コロナ禍以降は、X (旧 Twitter)、Instagram や Facebook 等の SNS を活用した情報発信、「BOKUJOB.com」に求人情報を掲載している牧場の紹介動画等も

BOKUJOB YouTube チャンネルで配信しており、牧場就業希望者が牧場就業を検討する際の貴重な情報源になっています。

また、Web 会議システムを使用した「Web 相談会・Web フェア」は、各牧場・団体の協力を得て実施していますが、参加者の大半は学生・生徒やその保護者ですが、最近では馬産業への転職を検討している社会人の参加も目立っています。2023年の「Web 相談会」(通年開催)では75名・134件、11月4日(土)、5日(日)に開催した「Web フェア」では30名・137件、の就業・進路相談を実施しました。

このほかにも、競馬や乗馬・馬術関係の雑誌、高校・大学の馬術部員が参加する馬術競技大会等のパンフレットに、BOKUJOB の取組みの紹介や参加・体験型イベントの募集告知等の広告を掲載し、BOKUJOB の活動を幅広く周知することで、牧場就業希望者等の BOKUJOB への参加促進を図っています。



BOKUJOB.com



BOKUJOB
YouTube チャンネル



X (旧 Twitter)

2024年の BOKUJOB 活動

2024年もメインフェアを中心に引き続き実施することを予定していますが、対面での就業・進路相談活動として、5年ぶりに「関西フェア」の再開を予定しています。前回までは宝塚記念に合わせて阪神競馬場で開催していましたが、「阪神競馬場スタンドリフレッシュ工事」に伴う開催日程の変更も考慮して、秋に京都競馬場での開催を計画しています。

最後に

BOKUJOB は、全国の生産牧場・育成牧場のご理解とご協力を得て、このような活動を実施することで、これまで競走馬の生産・育成牧場での就業を希望する若者を支援し、14年間で445名の牧場就業につなげてきました。

年度	合計	年度	合計
2010~2011年	23名	2018年	32名
2012年	28名	2019年	50名
2013年	18名	2020年	44名
2014年	17名	2021年	54名
2015年	26名	2022年	37名
2016年	22名	2023年	51名
2017年	43名	14年間 合計	445名

表5 BOKUJOB 活動による牧場就業者数の推移

この採用実績は、牧場へのアンケートの回答を集計した人数になりますが、アンケート未回答牧場への採用者、BOKUJOB を通じてBTC・JBBAの研修機関へ入講・修了した採用者等を考慮すると、BOKUJOB をきっかけとした牧場就業者はさらに多いと思われます。

今後も、BOKUJOB では、牧場就業を希望する若者に就業・進路相談活動等の事業を適切かつ丁寧に実施していきますので、皆様のご理解とご協力を引き続きお願いいたします。



図 11 BOKUJOB2023 メインフェアにご参加の皆様

スマホでも
パソコンでも!


BTC NEWS

最新号からバックナンバーまで
WEBでご覧いただけます



EBMの理念 動物の医療を取り巻く環境は近年めざましい勢いで進歩しており、世界中で新しい医療技術や医療機器、医薬品および飼料の開発が行われています。

EBMトレーディングジャパン株式会社は先端医療のスペシャリストとして獣医療、特に馬に関する最新の医療製品や多様なサービスをお届けする体制の確立に努めるとともに、品質、安全、法令順守を最優先に考え、動物の医療現場のソリューションプロバイダーとして、皆様のお役に立てる企業を目指すことをお約束いたします。

 **Boehringer Ingelheim** ベーリンガーインゲルハイム
アニマルヘルス ジャパン株式会社



ガストロガード®

動物用医薬品
馬用胃潰瘍予防治療剤
要指示医薬品 指定医薬品 使用基準



ハियोネート®

動物用医薬品
馬用非感染性関節炎治療薬



LMFシリーズ (配合飼料)

- SUPER SUPPLEMENT (繁殖・当歳~18カ月令 蛋白質21%)
- SUPER SUPPLEMENT Hi-Pro (繁殖・当歳~18カ月令 粗蛋白質30%)
- RACE (競走・育成馬 粗蛋白質13%)
- RACE Hi-Pro (競走・育成馬 粗蛋白質16%)
- PERFORMANCE CONCENTRATE (競走・育成馬 燕麦無 粗蛋白質12%)
- SENIOR (高齢馬)



PEN EQUINE FIRSTシリーズ

- AMINOLYTE (アミノライト) 電解質補給・分岐アミノ酸 (BCAA)
- FLEX (フレックス) 関節のサポート
- COOL CARE (クールケア) 胃腸のサポート
- FOUNDATION HOOF (ファンデーションフーフ) 蹄のサポート
- FRG-P (リカバリージェルパウダー) 筋肉のサポート
- DIGEST Powder (ダイジェストパウダー) 生菌製剤・プロ/プレバイオテックパウダー
- DIGEST Paste (ダイジェストペースト) 生菌製剤・プロ/プレバイオテックペースト
- E-RELAXED (ビーリラックス) 馬の環境変化に

EBM Trading Japan KK
Evidence-based Biotechnology and Machinery

EBM トレーディング ジャパン 株式会社

本社 〒004-0052 北海道札幌市厚別区厚別中央2条5丁目3番31号 新札幌第一生命ビルディング2階
Tel. (011) 827-5960 Fax. (011) 827-5962 <http://www.ebmtrading.com>
関東支店・関西支店

アニマルウェルフェア（馬に対する福祉）について

日本中央競馬会 馬事部 部長代理 頃末 憲治

1. はじめに

競馬産業において「アニマルウェルフェア」という言葉から、英ダービーやグランドナショナルの発走前にコースに侵入した動物愛護団体「アニマルライジング」に代表される競馬開催の妨害行為（図1）を連想する方も少なくないものと思われます。



図1 英ダービーでの動物愛護団体による妨害行為

このように、近年「アニマルウェルフェア」という言葉を耳にする機会が多くなっているように感じます。当初は、私自身も「アニマルウェルフェア」とは、英国の作家であるアンナ・シウエルの代表作として知られている「Black Beauty（黒馬物語）」の主人公の馬が受けた虐待や苦難の描写のような行為を馬に対して行わなければ、その概念を順守しているというような漠然とした理解に留まっていた。本稿では「アニマルウェルフェア（馬に対する福祉）」について概説いたします。

2. アニマルウェルフェアの概念において根幹をなす「5つの自由」

「アニマルウェルフェア」とは、世界の動物衛生の向上を目的とする国際機関である国際獣疫事務局（WOAH）の勧告において「動物が生きて死ぬ状態に関連した、動物の身体的及び心的状態をいう」と定義されています。これに基づき、農林水産省では「家畜を快適な環境下で飼養することにより、家畜のストレスや疾病を減らすこと」という考え方を踏まえた家畜の飼養管理の普及を啓発しています。つまり、家畜のアニマルウェルフェアとは、その動物種ごとの生理学的、機能学および生態学的な特徴を理解したうえで、それぞれの動物種ごとに本来の習性に合った最適な飼養環境を提供し、健康で心身に苦痛のないように飼育することと考えられます。

定義はさておき、アニマルウェルフェアの概念は、英国において劣悪な環境で飼育されていた家畜の環境を改善すべきという声が大きくなった1960年代に生まれました。そして、この家畜の環境を改善するために「すべての家畜には、立つ、寝る、向きを変える、手足を伸ばす、身繕いする自由を保障すべき」という基準が提唱され、これが現在におけるアニマルウェルフェアの根幹をなす概念となる、以下の「5つの自由」（図2）という指標の基になっています。

動物福祉指標「5つの自由」（〇〇からの自由）



図2 動物福祉の指標としての「5つの自由」

3. 動物福祉（Animal Welfare）と動物愛護（Animal Rights）

「アニマルウェルフェア」について考える際には、似て非なる「アニマルライツ」についての理解が不可欠となります。前者は「動物福祉」と訳され、さらに「動物が精神的・肉体的に充分健康で、幸福であり、環境とも調和していること」と意義付けられおり、動物が幸福（最小限のストレス、行動要求の充足、健康状態の維持等）であり、より良く生きることができている状態で飼育しなければならないという考え方です。後者は「動物愛護」と訳され、さらに「動物を人間と同一視しようとする理念に基づき、動物を大切に、愛そうとする精神」と意義付けられおり、動物には本来の性質に従って生きる権利があるという考え方です。

「動物福祉」と「動物愛護」の相違について、馬における具体例を示して説明します。「動物福祉」は経済（競馬、スポーツ、レジャー、農業、愛玩等）に貢献する馬に対して、ストレスをできる限り軽減させた健康的な生活ができるようにするという考え

方です。馬を産業動物として取り扱うことから、この考えには当然、馬が食用として「死」を迎える場合も含まれます。この際にも可能な限り苦痛を与えない方法、つまり麻酔による意識喪失下で心機能または肺機能を非可逆的に停止させる方法を選択することによって福祉を順守しなければならないという思考になります。一方、「動物愛護」は動物にも権利があり、人間が馬を使って経済活動を行うこと自体を否定するとともに、馬は本来の性質に従って生きる権利を有するという考え方です。これには馬を実験あるいは食用に使用すべきではないとする考えはもちろん、馬の意思に反している行為という捉え方から「競馬」や「乗馬」を否定するという思考にもなります。

「動物福祉」と「動物愛護」についての考え方の相違について述べましたが、近年では、特に愛玩動物において、この2つの境界線は曖昧になってきているように感じます。

4. サラブレッド生産牧場におけるウェルフェア

私は過去にIFHA（国際競馬統括機関連盟）に設置された「馬の福祉委員会」において、「馬の生産の福祉に関するミニマムスタンダード」作成のためのワーキンググループの一員として会議に参加しました。このワーキンググループの議論の中で、メンバー全員が口を揃えて「サラブレッドの繁殖牝馬および子馬は広い放牧地で細心の注意を払って管理されており、人間と関わる家畜およびペットの中で、最も自然に近い状態で管理されている」という自負を抱いているのが非常に印象的でした。

牛、豚、鶏は食用として供されるという性質上、特に「環境」「行動」に関する項目の順守が課題となっていますが、前述のワーキンググループメンバーの言葉に象徴されるように、サラブレッド生産牧場においては、アニマルウェルフェアにおける指標の基準となる「5つの自由」は十分に順守されているように感じられます（図3）。これはサラブレッド競走馬が「アスリート」として飼育されていること、つまり「健康な体づくり」、具体的には腱靭帯・骨・筋肉・心肺機能・神経、内分泌・免疫などの健全な発育を促すことを目的に飼育されていることが理由となっています。



図3 サラブレッド生産牧場において「5つの自由」は、産業動物の中で最も順守されていると考えられている

また、ワーキンググループの議論において、母馬の死や育児放

棄等により孤児となった場合に、乳母馬を導入する際には、乳母馬自身の子馬が90日齢に達するまでは、乳母としての用途に使用すべきではないとの提案がなされています。このように、これまではサラブレッドの子馬にのみ「福祉」の焦点が当てられていましたが、乳母馬自身の子馬に対する「福祉」に関しても考慮しなければならない状況になってきています。

5. 競走馬におけるウェルフェア

競馬場やトレーニングセンターで繋養されている競走馬におけるウェルフェアについて考えてみたいと思います。前述の生産牧場と比較すると、競走馬は馬房において個体管理されていることから「5つの自由」を十分に順守されているとは言いがたいことは疑いようがありません。ただし、馬房における個体管理は「競馬」という産業および経済活動を成立させるためには必要不可欠な管理方法であり、競馬場やトレーニングセンターにおいて放牧管理することは不可能であることも事実です。

しかしながら、「競馬」という産業を成立させるための制限された条件の中で、馬の立場に寄り添って、どのように「5つの自由」の順守に近づけていくかということを考えることこそが、競馬産業に携わる者の使命であり、これこそが「ウェルフェア」の真意ではないかと考えています。

JRAで実施している具体例は以下のとおりです。

- ・不快な住環境からの自由：猛暑時の馬房内の不快さによって「環境」が満たされない対応策として、馬房内に扇風機やエアコンの設置
- ・痛み・障害・病気からの自由：競走馬という特性上、調教が不可欠であるため、特に運動器疾患の発症が多く「健康」が満たされないリスクの対応策として、診察を受ける機会の促進（「トレセン内の競走馬診療所」および「競走馬見舞金制度」が貢献）
- ・不安・恐怖・抑圧からの自由：夏季の競馬は馬にとってストレスであり「精神状態」が満たされない対応策として、「パドックのミスト噴射」等の暑熱対策の実施

動物福祉指標「5つの自由」(〇〇からの自由)



JRAでの競走馬に対する「5つの自由」への取り組み

図4 JRAにおける競走馬に対する「5つの自由」への取り組み

・自然な行動の制限からの自由：馬房での個体管理によって「行動（他馬との接触）」が満たされない対策として、馬同士が顔を確認することができる「対面厩舎」の設置

このように日本は世界的に見ても競走馬のウェルフェアに積極的に取り組んでいるといえます（図4）。

6. 育成調教という側面からのウェルフェア

育成牧場におけるウェルフェアの概念は、馬房における個体管理が基本となることから、競走馬におけるウェルフェアに準じるものと考えられます。初期馴致における「丸馬場でのランジグ時の追い鞭でのプレッシャー」、「ローラー（胴締め）装着時のバックング反応（図5）」等は、見慣れない方からすると、アニマルウェルフェアに反していると捉えられかねないということも念頭に入れておかなければなりません。そのため、今後は馴致が簡単ではないということ等を伝える目的で、これらの動画や写真をSNS等で発信することは誤解を招く恐れがあるため、注意する必要があります。さらに、今後は馬が嫌がることを無理やり従わせるという行為も可能な限り避け、馬が自発的に行動するように導かなければならない時代が来ることも想定して、犬の調教等でも取り入れられている「オペラント条件づけ理論」の手法（図6）を初期馴致にも取り入れなければならぬかもしれません。



図5 ローラー（胴締め）装着時のバックング反応

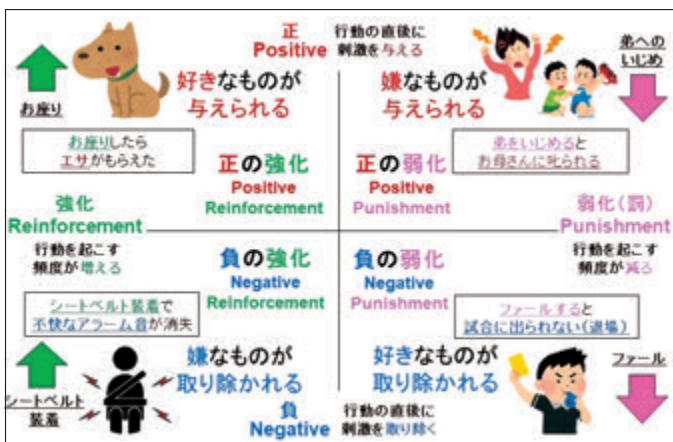


図6 オペラント条件づけ理論

この理論に基づくと、捕食者である犬は獲物を得ることに満足感を得るため、何かを得ることにより、行動を起こす頻度が増

加する「正の強化」によって行動が支配されている傾向が強いと考えられています。つまり、「正の強化」とは「お座り」をしたら「エサ」という好きなものがもらえるので、自発的に「お座り」する行動が増加するというイメージになります。

一方、被捕食動物である馬では、肉食動物に狙われるという危険な状態から逃げることによって安全で快適な状態、つまり満足感を得るため、嫌なものが取り除かれることにより、行動を起こす頻度が増加する「負の強化」によって行動が支配されている傾向が強いと考えられています。つまり、「負の強化」とは、我々の身近な例で例えると、シートベルトを装着しなければ、不快なアラーム音が鳴り続ける（シートベルトを装着すると不快なアラーム音という嫌なものが取り除かれる）ので、自発的にシートベルトをする行動が増加するというイメージになります。特に初期馴致においては、この「負の強化」の考え方に基づいて、馬が自発的に行動するように導かなければならないと考えられます。

欧州や豪州では、「アニマルウェルフェア」の精神が、日本と比較して、世間へ大きな影響力を持っています。特に、豪州においては、アニマルウェルフェアを掲げる勢力への対策として、出走前検査がより詳細に実施されており、調教師や馬主の判断を越権して、出走不可という決断が下されることも少なくありません。さらに、ヴィクトリア州では、調教師や厩舎スタッフのみならず、生産者に対しても「アニマルウェルフェア」や「馬の馴致に関わる正および負の強化」に関する講義を受講し、カリキュラムを完了することを義務付けるといった計画もあるようです。

幸か不幸か「馬」は言葉を発することはなく、馬自身がどのように感じているかを評価することは極めて困難であるため、「アニマルウェルフェア」の概念に関して、競馬に携わる関係者の考え方ではなく、第三者がどのように感じているかを考慮しなければ、今後、各国の競馬開催の継続に大きな影響を与えかねないということを理解しておく必要があります。

7. おわりに

育成牧場および生産牧場等、競走馬に関わる職業に携わる方々は、馬に興味を抱き、馬が好きでなければ、その職業を選択することはないことから、馬に対する「ウェルフェア」の推進者であることは疑いようがありません。そのため、「アニマルウェルフェア」の活動家等による外圧を受けてから対応するのではなく、馬に調教を課している私たち自身がその概念を順守して行動できれば最適です。理想を述べれば、近年、競走馬や育成馬に対して「ナチュラルホースマンシップ」の手技を導入している日本であるからこそ、「アニマルウェルフェア」の概念に基づいた馴致や調教方法を世界に先駆けて発信できるのではないかとさえ感じています。もちろん簡単なことではないということは理解していますが、そのためにも、物言わぬ「馬」の目線に立ち、常に「Patience（忍耐・寛容）」を心掛けて、馴致および調教に取り組まなければと、自問自答しています。

GREENWeb
CHANNEL

GREEN
CHANNEL

BS234ch

絶・賛・放・送・中 !!

グリーンチャンネルは中央競馬全レース中継をはじめ、
地方・海外競馬中継、展望番組なども放送中！

GREEN
CHANNEL ?
を見るには

スカパー！（BS234ch）、スカパー！プレミアム／光（688・689ch）、J:COM、eo光テレビほか、全国のケーブルテレビ局、ひかりTV、auひかりからご覧いただけます。また、グリーンチャンネルWeb（マルチ会員 1,000円税別／スマホ会員 500円税別）で、外出先でもお楽しみいただけます。

グリーンチャンネルの視聴方法・番組内容に関するお問い合わせ
または、お客様コール 03-5620-3344

（月・金曜日 10:30~16:30 開催日 9:00~17:00）※祝祭日、年末年始を除く

グリーンチャンネル

検索

エクエヌテクトERP

馬鼻肺炎生ワクチン



その他の馬用ワクチン・診断液

日生研日本脳炎TC不活化ワクチン

エクエヌテクトFLU

日生研日脳・馬ゲタ混合不活化ワクチン

エクエヌテクトJIT

日生研馬ロタウイルス病不活化ワクチン

破傷風トキソイド「日生研」

日生研精製伝貨ゲル沈抗原



日生研株式会社

〒198-0024 東京都青梅市新町9丁目2221番地の1

TEL 0428-33-1009(営業部)

URL <https://www.jp-nisseiken.co.jp>

JRA競馬博物館特別展「JRA70周年記念 歴代年度代表馬展～70年を彩った名馬たち～」

公益財団法人 馬事文化財団 競馬博物館部

長岡 武

東京競馬場内にあるJRA競馬博物館では、年間を通じて様々な展示を開催しています。今回は今春の東京競馬開催からはじまる特別展についてご紹介します。

(春)を6馬身差の圧勝で制するなど5戦5勝を挙げ、王者の実力を示しました。

特別展「JRA70周年記念 歴代年度代表馬展～70年を彩った名馬たち～」

その年の中央競馬を代表する年度代表馬。歴代の受賞馬には日本競馬史に燦然と輝く名馬が数多く名を連ねています。当館では1954年度(昭和29)～2023年度(令和5)までの年度代表馬を一堂に紹介する「JRA70周年記念 歴代年度代表馬展～70年を彩った名馬たち～」(会期:4月20日～9月29日)を開催します。

ここでは歴代の年度代表馬のなかから6頭をピックアップしてご紹介します。

1964・65年度 年度代表馬シンザン

1964年(昭和39)、65年(昭和40)には2年連続でシンザンが年度代表馬に選出されています。1964年(昭和39)は皐月賞、日本ダービー、菊花賞を制し、セントライトに次ぐ史上2頭目の三冠達成という偉業を達成し、翌1965年(昭和40)は天皇賞(秋)、有馬記念を制し、五冠馬という称号を得ました。引退後、種牡馬としても活躍し、日本競馬に大きく貢献。後に“シンザンを超えろ”が日本中央競馬会のキャッチフレーズになりました。



シンザン〔1964年菊花賞〕

1954年度 年度代表馬ハクリヨウ

年度代表馬の選出は1954年(昭和29)からはじまっていて、その第1号はハクリヨウです。前年には菊花賞を制していますが、この年は主に保田隆芳騎手とのコンビで天皇賞



ハクリヨウ〔1954年天皇賞(春)〕

1983年度 年度代表馬ミスターシービー

1983年(昭和58)には後方一気の差し脚で、多くの競馬ファンを魅了したミスターシービーが選出されています。三冠レースはいずれも1番人気。皐月賞ではメジロモンスニーを退け1冠目を獲得すると、日本ダービーでは直線早めに先頭に立ち優勝。菊花賞では3コーナーの下りから早めに仕掛けシンザン以来19年振り、史上3頭目の三冠馬となっています。



ミスターシービー (1983年日本ダービー)



ディープインパクト (2005年日本ダービー)

1990年度 年度代表馬オグリキャップ

1990年(平成2)にはハイセイコー以来の競馬ブームを巻き起こしたオグリキャップが選出されています。安田記念優勝後は宝塚記念2着、天皇賞(秋)6着、ジャパンカップ11着と不振が続き、限界説のささやかれるなかラストランとなった有馬記念。武豊騎手とのコンビで劇的な勝利を飾り、熱狂に包まれた中山競馬場ではオグリコールがこだましました。



オグリキャップ (1990年有馬記念)

2005・06年度 年度代表馬ディープインパクト

武豊騎手が発した「飛ぶような走り」で社会現象を巻き起こしたディープインパクト。3歳時は無敗で三冠を制すなど、6戦5勝で年度代表馬に選出。なかでも菊花賞当日は現在でも菊花賞最多入場人員となっている13万6701人が同馬の三冠達成を見届けようと駆け付けるなど、日本競馬に久々のスターホースが誕生しました。4歳時も天皇賞(春)・宝塚記念・ジャパンカップ・有馬記念を制し2年連続の年度代表馬に選出。その圧倒的な強さで競馬ファンを魅了したサラブレッドでした。

2018・20年度 年度代表馬アーモンドアイ

牝馬ながらも牡馬と互角以上の戦いを繰り広げ、芝のGIを9勝という金字塔を打ち立てたアーモンドアイ。2018年(平成30)は牝馬三冠達成に加え、ジャパンカップを2分20秒6という驚異的なレコードタイムで快勝し年度代表馬に選出され、2020年(令和2)は、ヴィクトリアマイル、天皇賞(秋)と制し、引退レースとなったジャパンカップはコントレイル・デアリングタクトとの3頭の三冠馬による世紀の一戦を制し有終の美を飾り、2度目の年度代表馬に選出されました。



アーモンドアイ (2020年ジャパンカップ)

なお、昨年は他馬を寄せ付けない走りでファンを魅了したイクイノックスが2年連続で年度代表馬に選出されています。

本展を通じて過去の名馬に思いを馳せるとともにJRA70年の歴史を感じて頂けると幸いです。

※展示の開催状況に関しては当館のホームページでご確認下さい。

(<https://www.bajibunka.jrao.ne.jp/keiba/index.html>)

※写真提供は全てJRA

軽種馬生産に影響を及ぼす細菌感染症

①子馬のロドコッカス・エクイ感染症

日本中央競馬会 競走馬総合研究所 微生物研究室 上席研究役

丹羽 秀和

はじめに

生産者を悩ます病気であるロドコッカス・エクイ感染症をはじめ軽種馬生産や育成を取り巻く環境には様々な細菌感染症が発生します。今回、BTCニュースの誌面をお借りし、軽種馬生産に影響を与える細菌感染症について最新のトピックスも交えて4回にわたりご紹介をしていきたいと思っております。初回は、子馬にとって最も脅威となる細菌感染症であるロドコッカス・エクイ感染症について取り上げます。

原因菌

ロドコッカス・エクイ感染症は、*Rhodococcus equi*（以下、*R.equi*）という細菌によって起こります。球形～ラグビーボール状の形をしたこの菌（図1）は、本来は土壌中や草食動物の糞便中に広く生息しています。pVAPA という病原プラスミドを保有する強毒株という特定のタイプが馬に病気を引き起こします。また、他のタイプの病原プラスミドを持ち、豚や牛に病気を起こすタイプ（pVAPB、pVAPN）もありますが、これらが馬に病気を起こすことはありません（図2）。また、病原プラスミドを持たずに病気を起こさない無毒株という株もあり、土壌環境を中心に広く生息しています。

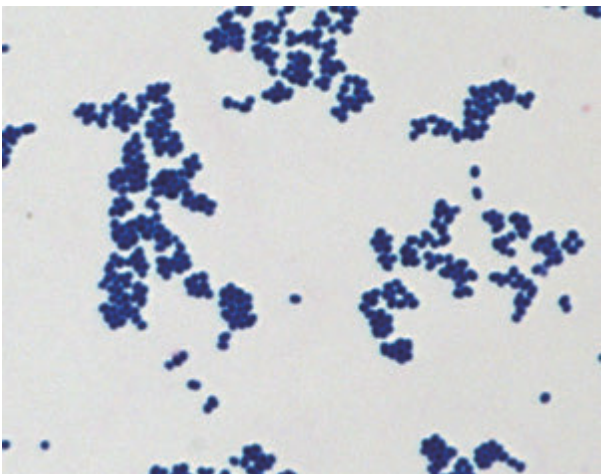


図1 *Rhodococcus equi* のグラム染色像

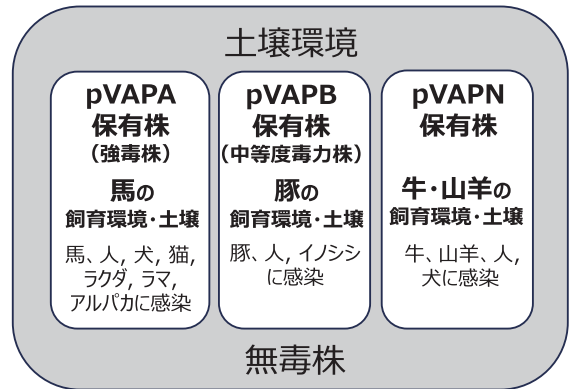


図2. 病原性プラスミド保有株と無毒株の棲み分け
高井ら（2021）の図を引用・一部改変

環境中の *R.equi* の生態

馬の飼養環境中には *R.equi* は広く存在し、その主な生息場所は土壌と動物の腸管です。 *R.equi* は、生後3ヵ月齢までは子馬の腸管でよく増殖し、それ以降になると徐々に減少していきます。母馬の糞便中からも *R.equi* を検出することができますが、環境から取り込んだ菌が腸管を通過して出てきたものと考えられています。また、 *R.equi* は10～40℃の範囲で増殖するため、日高管内の最高気温が10℃を超えるようになる4月～10月にかけては野外で増殖できる環境となります。特にパドックなどに排出された糞便中では増殖しやすく、温度などの条件が整えば1,000倍以上に増殖し、感染を広げる要因となります。

子馬への感染

感染は、主に馬の飼養環境中に存在する強毒株を呼吸とともに肺の中へ取り込むことで起こります（経気道感染）。そのため、環境中に浮遊する強毒株の量が多くなると、感染しやすくなります。また、馬の週齢も感染の成立に大きく関係します。Sanzら（2013）の実施した感染実験では、1週齢や2週齢では気管内への少量の菌の接種によって発症していたものが、6週齢になると多量の菌を接種しても発症しなかったことが報告されています（表1）。このことから、ロドコッカス・エクイ感染症を発症するほとんど子馬が、生後間もない時期から3週齢までの限られた時

期に感染していると考えられるようになってきました。

肺で増殖した *R. equi* は、痰の一部となって気管の細胞表面のブラシ状の構造物である繊毛の運動によって喉まで押し上げられます。痰に含まれる *R. equi* は、嚥下によって飲み込まれた後、腸管に到達すると、腸管やその周辺のリンパ節に感染を起こすことがあります。また、一部の菌は血液の流れに乗って関節や骨髄に感染を起こすこともあります。

表1 子馬の週齢と *R. equi* に対する感受性

週齢	投与菌数 (個)	発症率 (%)
1	1,000	50
1	10,000	100
2	1,000	50
3	1,000	0
3	100,000	100
6	100,000	0

Sanz ら (2013) の報告を引用・一部改変

症状と診断

ロドコッカス・エクイ感染症は、1~3ヵ月齢の子馬を中心に発生します。感染した子馬は、発熱 (38.5~40.0℃)、食欲不振、元気消失などの症状が現れ、次第に咳や頻回の呼吸などの呼吸器症状を示すようになります。ロドコッカス・エクイ感染症が毎年のように発生している牧場では半数の子馬が、明らかな症状がなくても気管や肺に異常が認められるいわゆる「不顕性感染」を起こしており、それらの子馬の20~25%は最終的に治療が必要な状態となることが海外で報告されています。さらに症状が進行し腸管やその周辺のリンパ節に感染が起これると下痢や疝痛などの症状が、関節や骨髄への感染が起これると跛行や関節炎などの症状が認められるようになります。

ロドコッカス・エクイ感染症に使用する抗菌薬は、一般的な他の細菌感染症に使用するものとは異なります。そのため、適切な



図3 ロドコッカス・エクイ感染症に感染した子馬の気管洗浄液
子馬の症状に応じて乳白色から水様まで様々な性状を示します。

抗菌薬による治療を行うためには、早期に正しい診断が必要となります。子馬の月齢、牧場での過去の発生状況、臨床症状、胸部超音波検査などの情報をもとに診断が可能です。必ずしも診断が容易ではないケースもあります。子馬の気管洗浄液を採取し、培養検査によって感染の有無を確認することが最も確実な方法です (図3)。

治療

ロドコッカス・エクイ感染症に対しては、原因を取り除く治療と症状を和らげる治療が必要となります。原因を取り除く治療には、抗菌薬を用います。抗菌薬は、リファンピシンとアジスロマイシンの併用が一般的です。軽症例に対してはセファロチンとゲンタマイシンを併用した治療が行われることがあります。これらの抗菌薬以外にも、ドキシサイクリンやミノサイクリンなどのテトラサイクリン系抗菌薬、クラリスロマイシン、ツラスロマイシン、ガミスロマイシンなどのマクロライド系抗菌薬による治療が実際に応用または検討されています。また、ロドコッカス・エクイ感染症による呼吸不全や発熱などにより子馬は著しく消耗することから、症状を和らげる治療も大変重要です。感染子馬のための清潔で快適かつ換気の良い環境の準備や適切な栄養の補給、症状に応じて解熱剤の投与、酸素吸入、輸液などが行われます。

ロドコッカス・エクイ感染症の治療期間は、症状の重さによって変わりますが、一般的には4~12週間を必要とするため、牧場にとって経済的、労力的に大きな負担となります。早期診断と適切な治療により、90%以上の子馬は治癒しますが、後述する多剤耐性菌の感染や腹腔内膿瘍など肺以外の部位に感染が起きていると、半数以上が回復できないと報告されています。

多剤耐性菌の出現

米国ではリファンピシンとマクロライド系抗菌薬の両方に耐

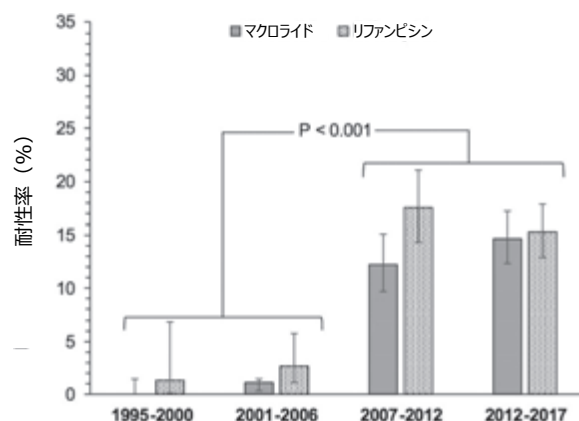


図4 ケンタッキー州における多剤耐性 *R. equi* の増加
近年では約15%の分離株がマクロライドとリファンピシンの両方に耐性を獲得しています。
Alvarez-Narvaez ら (2021) の報告を引用

性を獲得した株が2000年代に入ってから急速に増加しています(図4)。この多剤耐性菌株の感染による子馬の死亡率は、耐性を持たない株と比較すると7倍になると推測されています。現在、JRA競走馬総合研究所では生産地の獣医関係団体とともに日高管内で検出される *R. equi* の薬剤感受性についてサーベイランスを行っており、多剤耐性株の国内への侵入や拡散の有無を監視しています。

感染や発症を減らすための対策

残念ながら、現在のところロドコッカス・エキイ感染症を完全に予防する手段はないと言われています。しかし、後述する様々な対策の積み重ねにより、ロドコッカス・エキイ感染症による肺炎を少しでも減らすことができると考えられます。特に病気に対する感受性の高い生後3週齢までは、できるだけ子馬が *R. equi* を吸い込む量を減らすことができる対策を実施するとともに、子馬自身の免疫力を高めることが重要です。

1) 環境の対策

- a) 飼育密度の軽減：母馬・子馬の単位面積あたりの密度と発症率には関連があることがわかっており、飼育密度の軽減は、発症率の低下が期待できます。
- b) 糞便の除去：子馬が誕生・成長する時期は、*R. equi* にとっても子馬の腸管や環境中で増殖しやすくなる時期でもあります。サンシャインパドックや馬房の糞便を頻繁に除去することは、環境中の *R. equi* の菌数を減らすことに役立ちます。
- c) 糞便や敷料の堆肥化：*R. equi* は、60℃では数時間、50℃では3日間、45℃では6日間で死滅することが報告されています。中心温度が70℃に達する堆肥化は、牧場内における *R. equi* の循環の輪を断ち切るためにも重要です(図5)。
- d) 客土：土壌中の *R. equi* は、表層から20cmまでの深さに生息します。客土は、表面を10cm以上取り除き、新しい土に入れ替えることで *R. equi* の汚染の程度を効果的に低下させることができます。

2) 初乳の摂取

初乳中に含まれる移行抗体が、直接的にロドコッカス・エキイ感染症の予防に関与するかどうかは明らかになっていません。しかし、初乳を適切に摂取することによって子馬の免疫力を総合的に高めることが可能です。本病だけでなく他の感染症の併発を防ぐためにも、移行抗体不全が疑われた場合には積極的に高品質な冷凍初乳を子馬に投与することが推奨されます。

3) ワクチン

ロドコッカス・エキイ感染症に対するワクチン開発のために様々な研究が行われてきました。しかし、ロドコッカス・エキイ感染症は免疫が未熟な生後まもない時期に感染することや感染を防御するはずである抗体が細胞の中に感染している *R. equi* には届かないという問題があり、いまだ有効なワクチンは開発されていません。近年、ポリ-N-アセチルグルコサミン(PNAG)を原料とした糖鎖によるワクチンが有力な候補の一つとして検討されています。現在のところ、まだこのワクチンの有効性は確認されてはいませんが、PNAGに対して抗体を多く持つ子馬は、ロドコッカス・エキイ感染症に対してより抵抗性を示すことが明らかになっています。今後、効果的な投与方法や投与時期などについてさらに検討が進み、本ワクチンが有力な予防手段となることが期待されます。

4) 高度免疫血漿

R. equi を馬に免疫することによって得られる豊富な抗体が含まれる血漿を「高度免疫血漿」といいます。海外ではロドコッカス・エキイ感染症の予防用に市販されており(図6)、多くの生産牧場で日常的に使用されています。高度免疫血漿は、生後まもない時期(1~2日目)に投与することによって、発症時の症状を軽くし、感染子馬の糞便中の菌数を減少させることが期待できます。高度免疫血漿は国内では販売されていませんが、現在ある数少ない本病の予防手段の一つと考えられます。

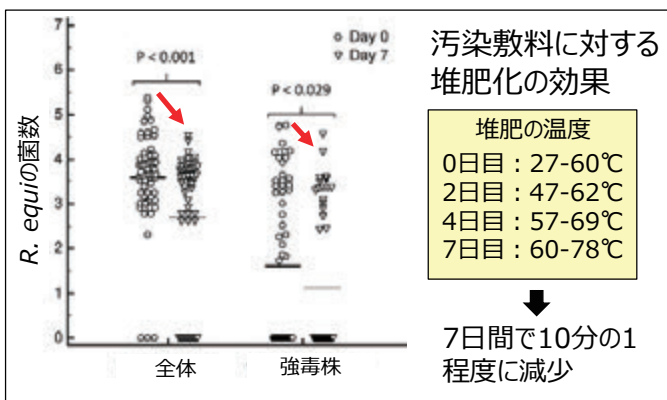


図5 汚染敷料中の *R. equi* に対する堆肥化の効果
Huber ら (2018) の報告を引用・一部改変



図6. 米国で市販されている高度免疫血漿
(Mg Biologics 社製：HP より転載)

BTC フォトコンテストはBTC 調教場内での風景、施設などの写真の撮影を浦河高等学校写真部に依頼し、その写真を審査・表彰をするコンテストで、今年で7回目となります。提出のあった作品はポスターやパンフレットなど当センターのPRに使用させていただき、調教場内や浦河町内施設で展示しております。

浦河高等学校写真部は町内外の作品展に出品し、優秀な成績を取っています。また、浦河町の様々なPRに使用されるなど、多方面で活躍されています。

写真部の皆さんは、最初はサラブレッドの素早い動きにフォーカスを合わせることに苦労されていたようですが、各自工夫を凝らし、今回も素晴らしい写真を撮影していただきました。

撮影中は、BTC 調教場利用者の皆様から、励ましの声かけや、生徒が撮影しやすいようご協力もいただきました。

今回23作品の中からBTC 役職員の投票で理事長賞、優秀賞2作品を決定し、特別賞のJRA 日高育成牧場賞と日高振興局賞は日高育成牧場場長、日高振興局長にご選定いただき、計5作品が表彰となりました。以下の通り受賞作品と撮影者のコメントを紹介いたします。

【理事長賞】

作品名「ひとり遊び」

撮影者：近藤 夕日さん

「動物相手だと自分が想像していない行動をするので、それも頭に入れながらフォーカスを合わせて、作品として成り立つか意識しながら撮影しました。この作品は、私には馬がたった1頭で水辺で遊んでいるイメージがなかったので撮影しました。自分の中でお気に入りの1枚です。このような機会をいただき、ありがとうございました。」



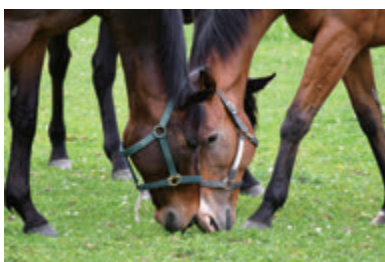
「動物相手だと自分が想像していない行動をするので、それも頭に入れながらフォーカスを合わせて、作品として成り立つか意識しながら撮影しました。この作品は、私には馬がたった1頭で水辺で遊んでいるイメージがなかったので撮影しました。自分の中でお気に入りの1枚です。このような機会をいただき、ありがとうございました。」

【優秀賞】

作品名「寄り合い」

撮影者：久保 陽介さん

「動物は自分たち人とは違うところがたくさんありますが、動物も人と同じように触れ合い、寄り合ったりして生きている姿を撮影しました。調教場は撮影していて色々な風景や馬がいて、楽しかったです。」



【優秀賞】

作品名「まーう」

撮影者：門ノ沢 心音さん

「みんな馬単体や、馬に乗っている姿を撮っていたので、もっとそれ以外にも馬の魅力を写真で表現する方法がないか考え、今回水晶玉を使った撮影に挑戦しました。新しい視点で撮影できて、いい作品になったと思っています。」



【特別賞：JRA 日高育成牧場賞】

作品名「素敵な笑顔」

撮影者：矢本 頌太さん

「調教中は人馬ともに真剣な表情をしていた彼らがあのような笑顔を見せたのが印象的だったのと被写体の方の笑顔も素敵だなと感じ、この作品を選びました。調教中とリラックスしているときのギャップが表現できた作品になったと思います。」

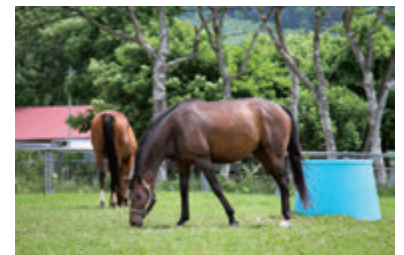


【特別賞：日高振興局賞】

作品名「日常」

撮影者：坪 ころろさん

「私たちは高校生の普段の日常を撮ることが多いですが、馬の日常とはなんだろうと考えながら撮影した一枚です。走っているのも日常ですが、太陽に照らされながら穏やかに過ごしているのも日常だと思い撮影しました。」



ご紹介した作品以外にも素晴らしい作品を多数提出いただきました。当センター HP に掲載しておりますので、ぜひご覧いただければ幸いです。

コンテストに参加していただいた写真部の皆様、また、大変お忙しい中、撮影にご協力いただいたBTC 調教場利用者の皆様には、この場をお借りして御礼申し上げます。

JRAのリトレーニングプログラムとその応用②

日本中央競馬会 馬事公苑 宇都宮事業所 調査役 宮田 健二

はじめに

今回はJRAのリトレーニングプログラム、グラウンドワークのLevel 1、トレーニング中に馬に与える時間的余裕（愛撫）についての話でした。今回は、グラウンドワークのLevel 2、Level 3とその応用等についてご紹介します。

- Level 1 引き馬
- Level 2 横からの働きかけ
- Level 3 前後への働きかけ
- 項(うなじ)への働きかけ
- 鈍化
- Join-Up

★グラウンドワーク

図1 グラウンドワークの6つの働きかけ

Level 2 横からの働きかけ

横からの働きかけは、人（ハンドラー）が馬のリーダーであることを理解させることが目的です。駐立させた馬の横方向のパーソナルスペースに侵入してプレッシャーを与え、スペースを譲らせます。前回紹介したように、心理的な縄張り空間であるパーソナルスペースへの侵入を許してスペースを譲らされることは、相手が序列上位であると認めることになります。



図2 調教風景 Level 2

最初は、馬のスペースに侵入し、リードの余り部分を馬の腰角周辺で振り回します（図2）。反応がない場合は、徐々にプレッシャーのフェーズを上げます（強くする）。少しでも馬がスペースを譲ってくれたらプレッシャーを解除（off）します。馬がプレッシャーの意味を理解できない場合は、リードを腰角にぶつけるなどのやや強い刺激を与えることもありますが、あくまできっかけ作りです。強い刺激を与えた場合は、プレッシャーをoffにした後で十分に愛撫して馬を褒め、馬に考える時間を与えることが重要です。左右どちらからでも同じように馬をコントロールできなければなりません。馬体の右側からの刺激に対する反応と、左側からの刺激に対する反応は、多くの場合差があります。馬の反応を観察しながらプレッシャーのフェーズを調整し、馬に恐怖を与えることの無い（馬を怖がらせない）ように注意する必要があります。リードを怖がる馬は、パッシングの要領でリードに慣らします。リードの代わりに長鞭などを使うこともできます。プレッシャーの意味を馬が理解し始めたらフェーズを徐々に弱め、小さなアクションで馬に働きかけます。また、譲らせるスペースの大きさにも精度を求めます。譲らせるスペースを1歩分や2歩分などと予め決めておき、達成できたらプレッシャーをoffにします。最終的には、腰角方向に腕を伸ばす等の小さなアクションだけでスペースを譲り、騎乗時の前肢旋回のように前肢を軸にして後駆を回転させる状態を目指します。

慣れてくると必要以上に馬が動いてしまうことがあります。プレッシャーを怖がっているでなければ馬が勝手に動いてしまっている状態で、馬の誤りです。すかさず馬の反対側に回り込み、動き過ぎた分だけ馬を戻します。また、馬がスペースを譲る際、肩を張って前方に逃げる（逃避する）ことがあります。これも誤りです。リードを下方方向に引いて馬の鼻面を抑え、鼻梁にプレッシャーを与えることで前方への逃避を防止します。

Level 1では、ハンドラーの動きと同調して人の右側の位置（引き馬の正しい位置関係）を保持することを求め、そこ

からはみ出した場合はすぐに馬の位置を戻して誤りを理解させました。Level 2ではハンドラーが要求する位置からはみ出すことが誤りです。また、プレッシャーのフェーズを徐々に弱め、より小さなアクションでも馬が反応するように馬の集中力を高めます。

Level 3 前後への動きかけ

前後への動きかけは、ハンドラーのパーソナルスペースに対する注意を促し、人馬の序列を確認するとともに、馬に与える課題のステップアップが目的です。

駐立させた馬の正面に立ち、リードを揺すって波打たせたり、リードの余り部分を顔の近くで振り回しながら馬に近づき、後退を促します(図3)。



図3 調教風景 Level 3後退

ハンドラーは背筋を伸ばし、心身を大きく見せるイメージでプレッシャーを与えます。スペースを譲りハンドラーの要求する位置へ移動する、という意味ではLevel 2と変わりませんが、移動する方向が難度の違いとなります。後方は馬の死角となるため、後退を躊躇したり、後退しても斜め方



図4 馬が後退しない原因

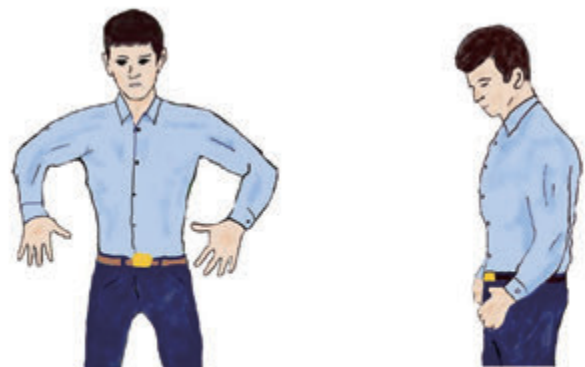
向に逃げる場合があります。プレッシャーのフェーズを調整すると同時に、Level 2の応用で斜め方向のズレを修正して真っすぐ下がることを求めます。馬が後退しない原因がハンドラーにある場合もあります。

プレッシャーのフェーズを上げ、馬に近い位置で馬に働きかけよう意識するあまり、顎の下や口元近くなどの馬の死角に入ってしまうと馬にはハンドラーの意図が伝わりません(図4)。馬と適度な距離を保ち、馬に分かりやすく働きかける必要があります。



図5 調教風景 Level 3呼び込み

次に、ハンドラーが後退しながら馬を呼び込みます。視線を落としてやや前屈みになり、優しい気持ちで、心身を小さく見せるイメージを持つと馬が近づき易いと思います。



左：心身を大きく見せるイメージ
右：心身を小さく見せるイメージ

図6 心身のイメージ

理解を促すきっかけとして、リードを引いて項を刺激する場合もあります。馬が前進を始めたなら、適度な距離でハンドラーの姿勢を戻して馬を停止させ、愛撫します。適度な距離は、ハンドラーが最初に駐立させた馬の前に立った時の

位置関係をイメージしてください。この距離をハンドラーのパーソナルスペースとして馬が認識できれば、人馬の序列はより明確になります。理解が深まれば、ハンドラーが一步下がれば馬が一步近づき、ハンドラーが一步近づけば馬が一步下がるような関係性が構築できます。プレッシャーのフェーズを調整し、最終的にはハンドラーが姿勢を変えなくてもこの距離を保ちながら前後に移動できる状態を目指します。

トレーニングの応用

Level 2とLevel 3では、腰角や顔周辺にプレッシャーを与えてスペースを譲らせ、人馬のパーソナルスペースに配慮しながらハンドラーの意図する位置に馬を誘導します。このトレーニングを応用すれば、馬のステーブルマナーを改善させることができます。洗い場で馬が体を寄せて来た時や馬房のボロ拾いの際、Level 2の要領でプレッシャーを与えて後軀を動かし、馬にスペースを譲らせます。



図7 洗い場で馬を移動させる

立ち馬展示の際、人に近づき過ぎる馬には、Level 3の要領で馬の顔にプレッシャーを与えて適切な距離を保ちます。馬房に入る際、入り口を塞いでしまう馬を移動させる場合も同様です。顔周辺にプレッシャーを与えることに慣れれば、横を向いた馬にプレッシャーを与えて前を向かせることも可能となり、真っすぐな駐立を維持できるようになります。馬に接する際、常に馬との距離を意識してプレッシャーのonとoffを繰り返すと、人馬の序列を繰り返し確認することになるため、以前より格段に扱いやすい馬になると思います。

馬を迎えに行く時に気を付けていること

馬を馬房から出す際、入り口のほうを向いて待っていてく

れたら助かるのですが、そんな馬はあまりいないと思います。窓の外や馬房の隅をみてジッとしている馬や、馬房の入り口にきて首を出す馬が多いと思います。窓の外を見ている馬に近づいたら逃げてしまうこともあります。皆さんは、そんな馬たちにどのようにして無口を付けますか？馬を扱う経験に乏しい方は、無口を付けることに集中してしまい、首を出している馬にそのまま無口を付けたり、外を向いている馬を迎えに行ったりしてしまいがちです。そのやり方を間違いとは言いませんが、私は馬を扱う方に、馬を適切な場所に移動させてから無口を付けるようにお願いしています。

馬を迎えに行こうと近づく時、馬はどの程度の距離から人の接近を認識しているのでしょうか。草食動物である馬は、絶えず周囲を警戒しています。私たちが馬房の前に到着した時には、馬は当然我々を認識しているはずですが、馬が人の接近を認識しているにもかかわらず人から離れたり、反対に人に近づき過ぎるのは馬の勝手な行動です。馬の勝手な行動を許容してしまうと、馬が序列上位となってしまいます。せっかくグラウンドワークで馬との良好な関係性を構築しようとしているのに、ファーストコンタクトで矛盾が生じるのももったいないと思います。最初に声をかけるなどの挨拶をしてトレーニングの開始を伝え、適切な位置に移動させることからトレーニングを始めるようにお願いしています。

簡単な体調確認の一環として、馬と馬房の様子を観察することも併せてお願いしています。挨拶の際に馬の眼や体を観察し、怪我が無いか確認します。馬を移動させたり無口を付ける間に、寝わらの状態やボロ、飼い葉や牧草なども確認してもらいます。馬が自由に行動している馬房には、馬の“サイン”が散りばめられていると考えるからです。疝痛による前掻きで寝わらが寄っているのは分かりやすいですが、飼い葉桶周辺の食いこぼし（菌に異常がある時に増えることがあります）などは注意して観察しなければ見つけられません。馬を含めた馬房の状態を確認する習慣を身に付けると、意識しなくても様々な馬の“サイン”を見つけれられるようになります。また、確認の際は見る順番を決めることもお願いしています。同じ順番で確認すると、見逃しのリスクが減るためです。異常の早期発見のため、馬と接する方には馬や馬房を観察する習慣を身に付けていただきたいと思っています。習慣が身につくと、馬の個性や意思表示のボディランゲージにも気付けるようになります。是非試してみてください。

(次号へ)



社台ファーム



只今、騎乗スタッフを募集中です。

条件等は下記までお気軽にお問い合わせ下さい。

(担当：青田, 佐藤)

[社台ファーム]

〒069-1181 北海道千歳市東丘1288-140 TEL 0123-21-2311 FAX 0123-21-2576

馬術に関するトピックス満載

日本馬術連盟では、毎月1回 機関誌『馬術情報』を発行しています。
国内の主要競技会、日本選手の国内外での活躍、海外の情報、その他馬にかかわるトピックス満載です！



月刊

馬術情報

Japan Equestrian Federation Journal



公益社団法人
日本馬術連盟

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16
TEL 03-3297-5611 FAX 03-3297-5617
<https://www.equitation-japan.com>

購入・購読のお申し込み方法

毎月1日発行 A4サイズ/約48ページ

定価 **550円** (送料・消費税込)

年間購読 **12冊 5,500円** (送料・消費税込)

■お申し込み方法

ハガキ・FAX・ウェブサイトから、下記事項を明記のうえお申し込みください。
代金の入金確認後に発送いたします。

- ① お名前 (ふりがな)
- ② 郵便番号
- ③ 住所
- ④ 電話番号
- ⑤ 下記のいずれかを明記してください
 - ・1冊のみ購入希望の場合は希望月
 - ・年間購読希望の場合は購読開始月

■お支払い方法

下記のいずれかの方法でお支払いいただけます。

- ◎銀行振込 : 三菱UFJ銀行 本店
(普) 1447629
コウエキシャタンホウジン ニホンバ(ジユツレンメイ) 公益社団法人 日本馬術連盟
- ◎郵便振替 : 00150-2-31103
コウエキシャタンホウジン ニホンバ(ジユツレンメイ) 公益社団法人 日本馬術連盟
- ◎現金書留 : 〒104-0033
東京都中央区新川2-6-16
馬事畜産会館6F
公益社団法人 日本馬術連盟
総務部『馬術情報』係

※個人情報『馬術情報』発送の目的以外には使用いたしません。

パドックアイ

その一瞬を逃さない、
全馬のパドック動画をあなたの元へ



「縦」のパドック比較であなたの予想が進化する

無料デモページ公開中！

JRAシステムサービス株式会社

★ BTC 調教場利用 重賞競走 優勝馬一覧 (2023年12月～2024年2月分) 関係者の皆様、おめでとうございます。

(中央競馬)

- ・リカンカブール 牡5歳 中山金杯 G III (2024/01/06・中山)
- ・ウィリアムバローズ 牡6歳 東海 S G II (2024/01/21・京都)
- ・ルガル 牡4歳 シルクロード S G III (2024/01/28・京都)
- ・テーオーロイヤル 牡6歳 ダイヤモンド S G III (2024/02/17・東京)

(地方競馬)

- ・ノットウルノ 牡5歳 佐賀記念 Jpn3 (2024/02/12・佐賀)
- (海外重賞競走)
- ・リメイク 牡5歳 リヤドダートスプリント G3 (2024/02/25・SAU)

あ・と・が・き

- ★ 今冬、北海道は年が明けてから日本海側で大雪に見舞われ、全道で寒暖差が激しくなりました。浦河では積雪は少なかったものの、凍結と融解が繰り返され、馬道の整備に苦労することが多い冬となりました。現在は屋外馬場の開場作業が急ピッチで進められており、今年8月には、屋内トラック馬場の砂入れ替え工事等を予定しています。具体的な日程が決まり次第、随時お知らせいたします。また、工事に伴う通行規制などが発生する場合がありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。(K.H.)
- ★ 前号、BTC 研修修了生から初めての JRA 調教師となった美浦・青木孝文調教師の活躍をお伝えしましたが、管理するマイネルグロン号が中山大障害 (J・G I) でも勝利を収め、初めての G I タイトルを手に入れました。さらに、2023 年度の最優秀障害馬にもマイネルグロン号が選ばれるなど、大きな成果を挙げました。青木調教師は、BTC 研修入講時 (2000 年)、中山大障害馬・天皇賞馬を育てる！と意気込みを語っており、その言葉通りの実績を築きました。次なる目標は天皇賞ですね。
- ★ また、同じく BTC 研修修了生の栗東・杉山佳明調教師 (20 期) は、イフェイオン号でフェアリーステークス (G III) を勝利し重賞を初制覇しました (お二人には、BTC ホームページの研修 OB 紹介インタビューにもご協力頂きました)。さらに、BTC 研修 22 期修了生の浅利英明さんが、2024 年度の JRA 新規調教師免許試験に合格し、BTC 研修修了生としては 5 人目の快挙となりました。浅利さんは、スペシャルウィークとグラスワンダーの宝塚記念に憧れてこの世界を目指し、とても真剣に研修に取り組み、今回その姿勢が実を結びました。今後も BTC 研修修了生たちの活躍に期待が高まります。(K.M.)

BTC ニュース 2024 年 (2) 第 135 号

※ BTC ニュースに関するお問い合わせ、配達先変更・配送中止のご連絡は、下記にて受け付けております。また、BTC ニュースは BTC ホームページからもご覧いただけます。

発行日：令和 6 年 4 月 1 日

発行：公益財団法人 軽種馬育成調教センター TEL 0146 (28) 1001 (代)

FAX 0146 (28) 1003 e-mail : kyoiku_fukyu@b-t-c.or.jp

〒057-0171 北海道浦河郡浦河町字西舎 528

編集責任者：松尾 雅洋 編集：小林 光紀 制作・印刷：西谷印刷株式会社 〒135-0022 東京都江東区三好 2-1-4



HP



BTC ニュース

フランス製 PVC 馬場柵

人と馬にやさしい馬場柵をお届けします



安全性、経済性を追求した紫外線にも強いPVC素材の馬場柵です



欧州と中東を中心に世界各地で40年以上の販売実績を持つフランスのPVC(ポリ塩化ビニル)馬場柵メーカー「Fornells (フォーネルス)社」の製品をご紹介します。

Fornells社の馬場柵は、凱旋門賞が行われるロンシャン競馬場でも採用されています。

JRAファシリティーズ株式会社

〒104-0032 東京都中央区八丁堀3丁目19番9号 ジオ八丁堀
TEL 03(6631)9002 FAX 03(6631)9012

Thoroughbred Breeders Club – Stallions Information –

豊かなスピードを武器に3歳でG1スプリンターズSを制したモーリス後継



©Keibabook

ピクシーナイト

Pixie Knight (JPN)
2018年生 安平産 鹿毛

父:モーリス 母:ピクシーホロウ(by キングヘイロー)

- ・G1スプリンターズSでレシステンシア、モズスーパーフレア、ダノンスマッシュらG1馬を相手に2馬身差をつける完勝で、2007年以来の3歳馬によるスプリンターズS優勝
- ・父モーリスは本馬の他に国内ではジャックドールがG1大阪杯、ジェラルディーナがG1エリザベス女王杯を制し、オーストラリアではヒトツHitostuがG1ATCオーストラリアンダービーなどG1・3勝、マズMazuがG1BRCDウムベン10000Sなどを送る

競走成績	14戦3勝2着2回3着1回 総賞金2億2764万円
	1st スプリンターズS-G1 芝1200m
	1st シンザン記念-G3 芝1600m
	2nd セントウルス-G2 芝1200m
	2nd CBC賞-G3 芝1200m

種付料 受胎条件 **100万円** フリーリターン 出生条件 **150万円** 特約付き

配合申し込み・お問い合わせは ▶▶▶ TEL 01456-2-2121 ブリーダーズクラブ遠藤・秋山・神谷・池田・福島まで!

繁殖  **ブリーダーズスタリオンステーション**
〒055-0004 北海道沙流郡日高町富川東2丁目972番地3
TEL 01456 (2) 0945 FAX 01456 (2) 2054

事務局  **(株)サラブレッドブリーダーズクラブ**
〒055-0004 北海道沙流郡日高町富川東3丁目3番1号
TEL 01456 (2) 2121・2122 FAX 01456 (2) 2505

アスカル

競走馬専用
900g(30g×30袋)

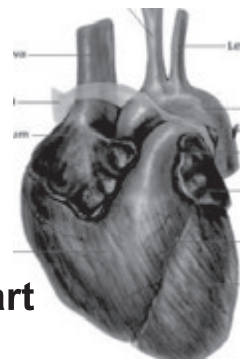
Astaxanthin & L-Carnitine

天然型アスタキサンチン
(ヘマトコッカス藻由来)

L-カルニチン



Muscle



Heart

- 品名:アスカル
- 規格:30g/アルミ袋
- 包装:900g(30g×30包)/化粧箱
- 給与方法:馬1頭1日あたり本品60g(30g袋×2回/朝夕)を慣用飼料に混合して給与する。
- 原材料名:米ぬか油かす、ヘマトコッカス藻抽出物(アスタキサンチン含有)、L-カルニチン。

※競走馬のスクミなど筋肉の障害、疾病の治療、改善を目的としてアスタキサンチンを含む飼料及びアスタキサンチンを馬へ与える特許は富士化学工業(株)が所有しております(特許第3660244号)



アスタリアル®は富士化学工業(株)の商標です。

技術提携先



富士化学工業株式会社
FUJI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.



カルニキング®はスイスロンザ社の商標です。

Lonza

お客さま
窓口

株式会社岩崎清七商店 競走馬事業部 TEL 03-3201-1666 FAX 03-3201-0028
〒100-6309 東京都千代田区丸の内2-4-1丸ビル9階912区 <http://www.s-iwasaki.jp>
[北海道] 株式会社北海道ホースフィード TEL 0146-32-3106
JRAファシリティーズ株式会社 飼糧課 美浦TEL 029-885-2161 栗東TEL 077-558-0319